

# 消防団用可搬式ウインチ 取扱いマニュアル

## LIBERTY X-13



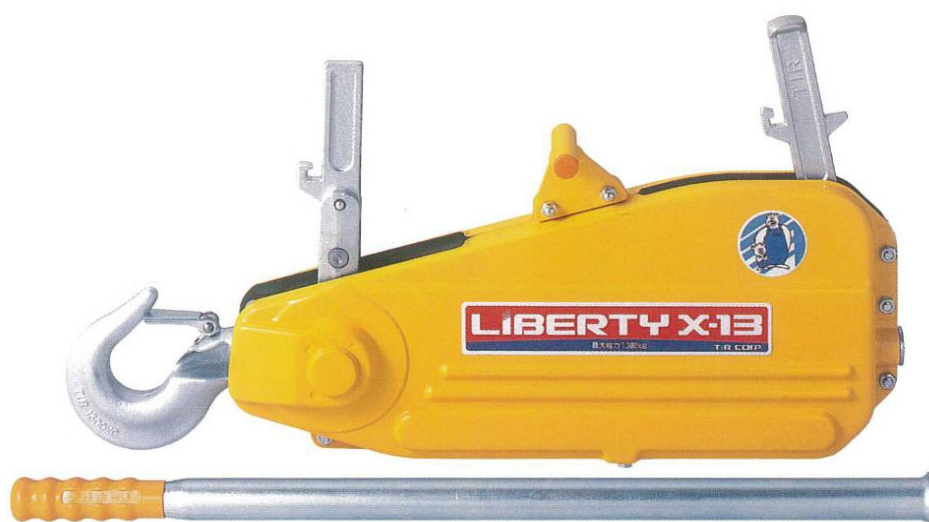
# 目次

1	「概要」・「諸元」	2	P
2	「各部の名称」	3	P
3	「設定方法」・「操作要領」	4～6	P
4	「安全ピソ交換要領」	7	P
5	「保守管理」	8	P
6	「使用上の注意事項」	9	P

## 「概要」

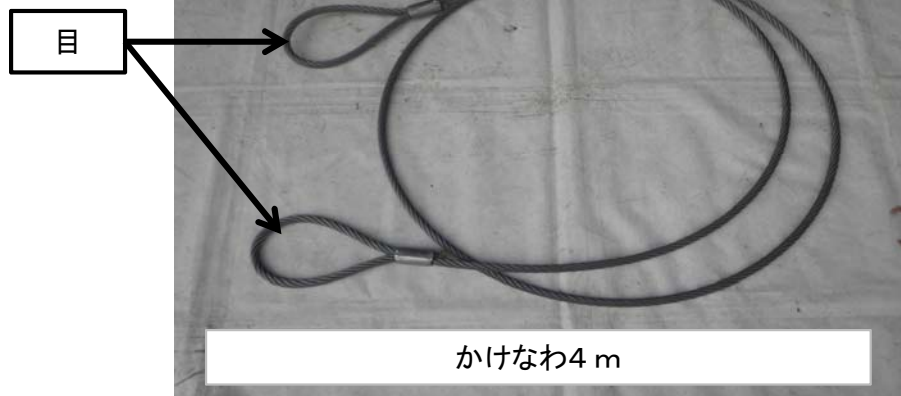
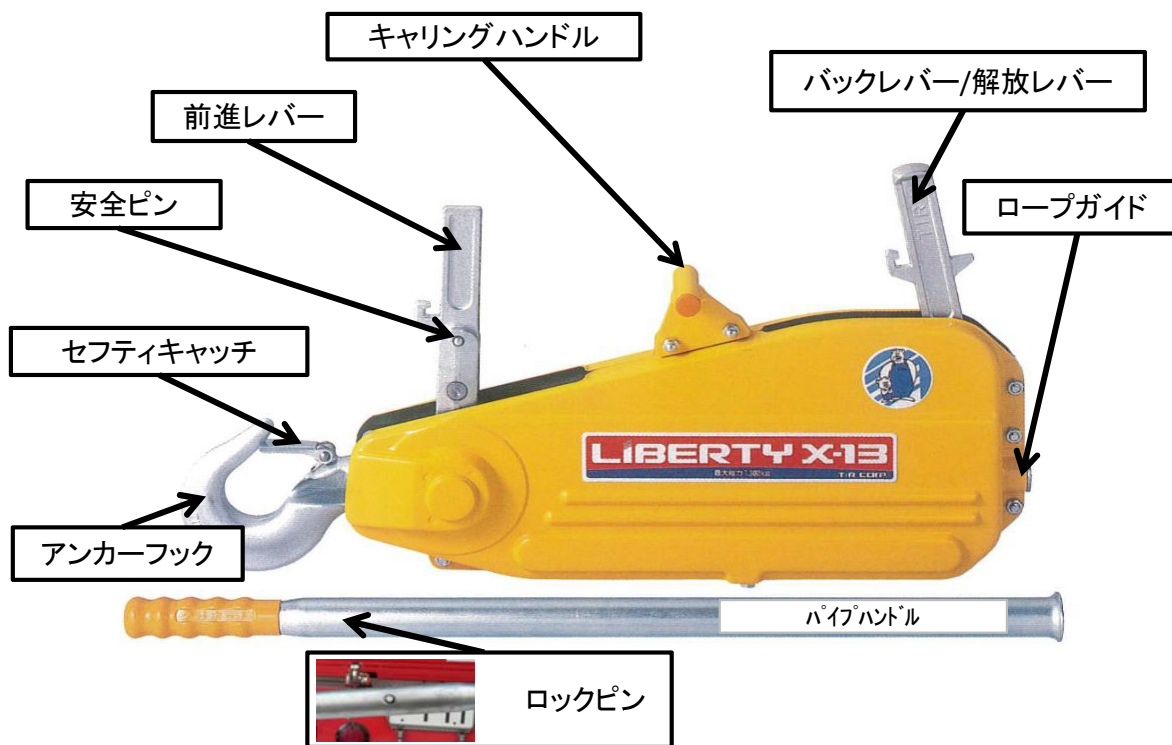
可搬式ウインチは、動力を使用せずに人力操作によってけん引作業を行う資機材である。

## 「諸元」

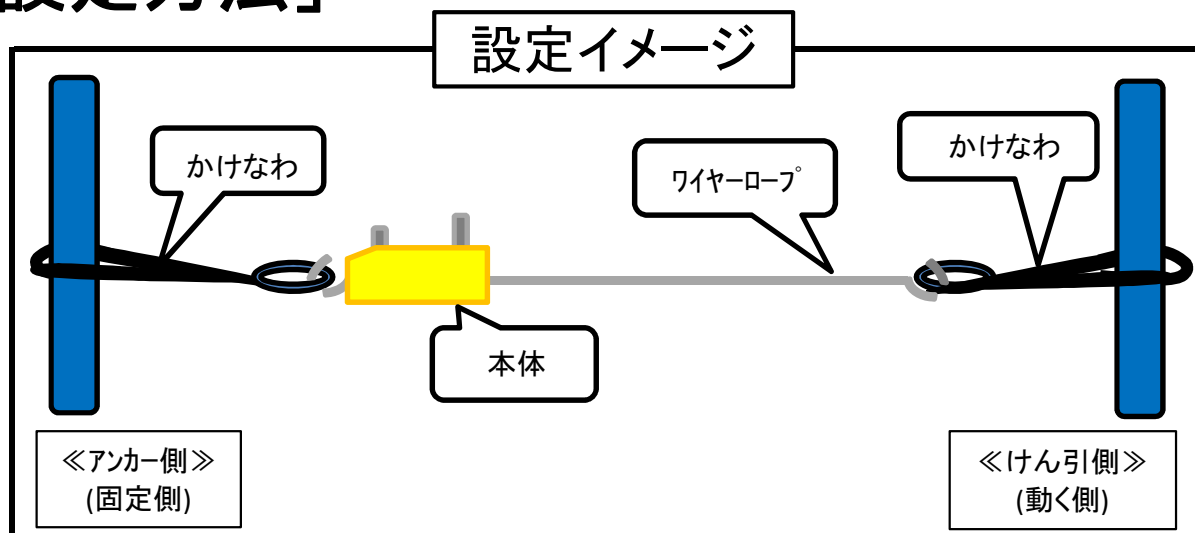


メーカー	カツヤマキカイ株式会社
名称	リバティ (LIBERTY)
型式	X-13
最大能力	1,300 kg
本体自重	9 kg
揚程	ワイヤーロープ自体の長さ
稈比	46：1（操作力 29 kg）
ワイヤーロープの送り長さ	60 mm
安全ピン耐力	約 2,600 kg
本体寸法（mm）	550×302×87

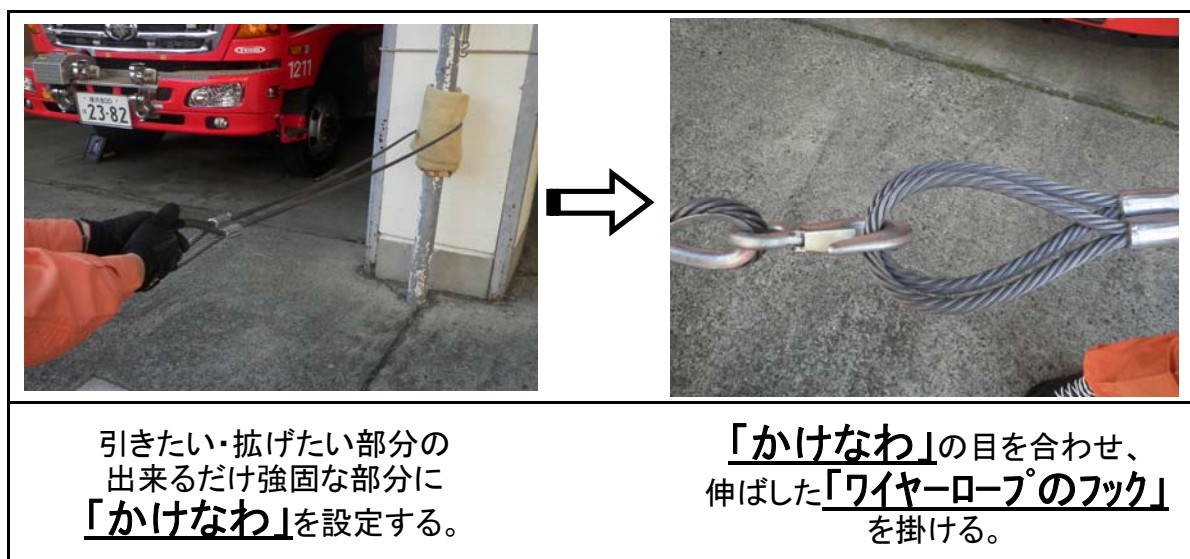
# 「各部の名称」



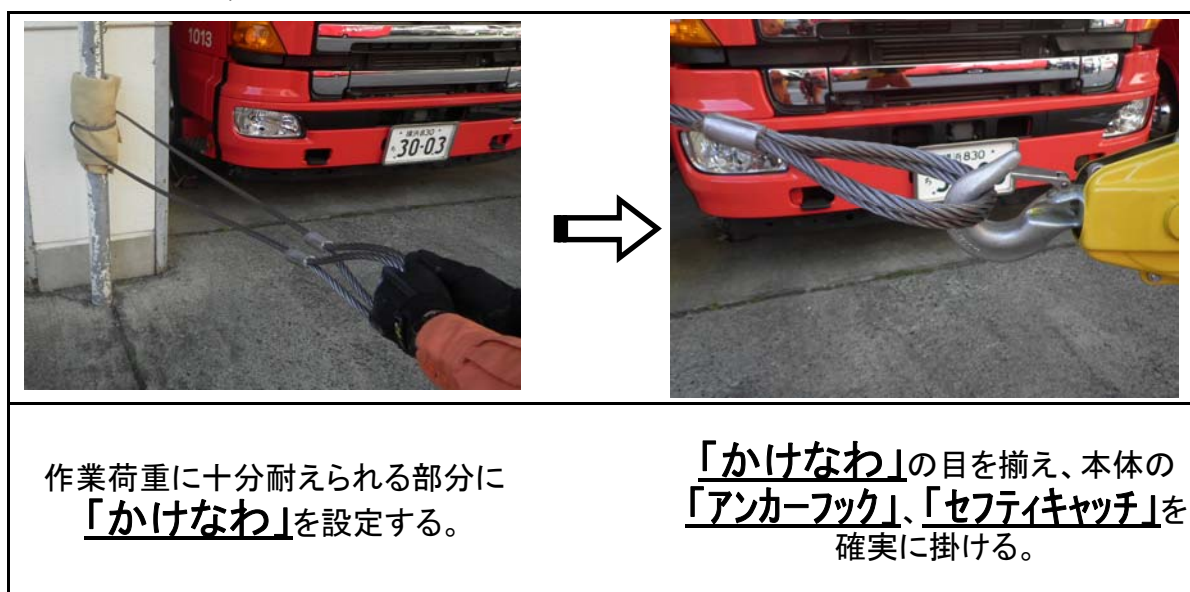
# 「設定方法」



## 《けん引側》



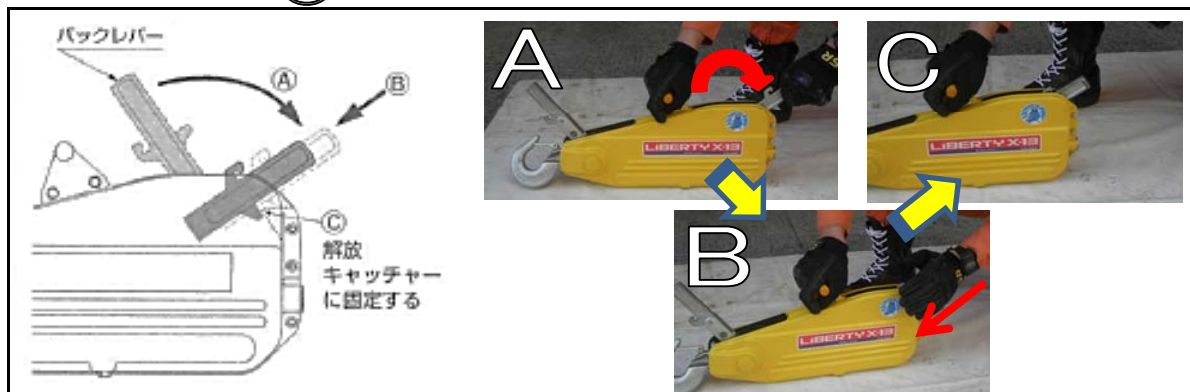
## 《アンカー側》





# 「設定方法」

## 《本体操作》①



「バックレバー」をAの方向に一杯に倒し、次にBの方向へ押し込む。

その後、「バックレバー」が「解放キャッチャー」に固定されていることを確認する。

②



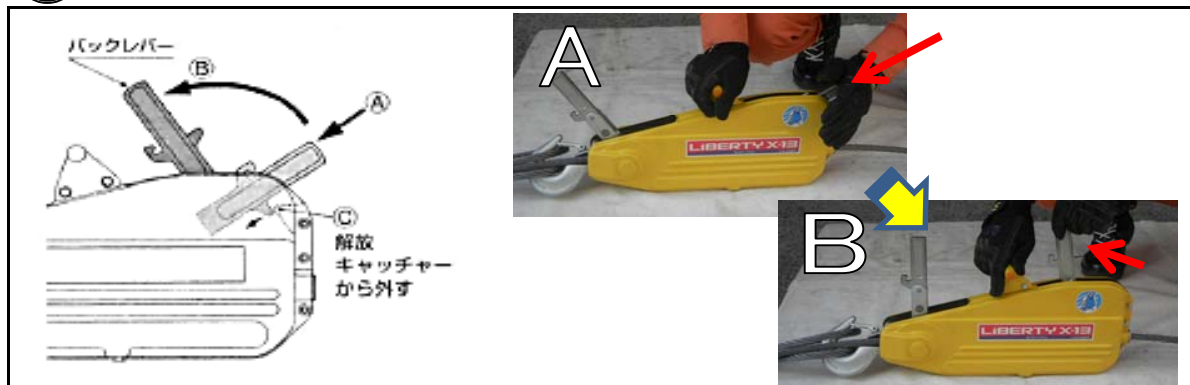
「前進レバー」を矢印方向に倒し、設定済み「ワイヤーロープ先端」を「ロープガイド」側から挿入する。

③



「アンカーフック」側まで通った「ワイヤーロープ」をたるみが無くなるまで引っ張る。

④



「バックレバー」をAの方向に押し、「バックレバー」がBの方向に戻ることを確認する。

「ワイヤーロープ」がロックされていることを確認する。

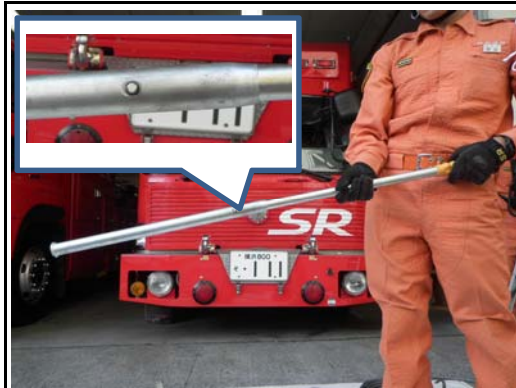
# 「設定方法」

## 《パイプハンドル》①



「パイプハンドル」を伸ばす。

## ②



ホールから「ロックピン」が出て、  
ロックされていることを確認する。

## ③



引っ張り操作



戻し操作

「パイプハンドル」の切りかきを、引っ張り操作は「前進レバー」、  
戻し操作は「バックレバー」に差込み、90度回転させる。

「パイプハンドル」が確実に固定されていることを確認する。

# 「操作方法」



慎重に操作を行う時以外は、「パイプハンドル」を出来る限り大きく左右に動かす。

# 「安全ピン交換要領」

①



「キャリングハンドル」の  
キャップ部分を外す。

②



内から予備の  
「安全ピン」を取り出す。

③



破損した「安全ピン」を工具  
などを使い、取り外す。

④



予備の「安全ピン」  
を差込み、金槌で叩く。  
(しっかり裏面まで届けば完了)



# 「保守管理」



使用後、「本体」及び「ワイヤーロープ」の汚れや水分を拭き取り、注油をする。



正常な状態



素線が切れている状態

「ワイヤーロープ」の状態を確認する。右写真のように素線が見た目で15本以上切れているものは使用しない。  
(配布ワイヤーを計算)

著しい変形や腐食があるものは使用しない。



使用前後には必ずグリスを注油する。注油後、グリスが馴染むまで数回空荷操作をする。

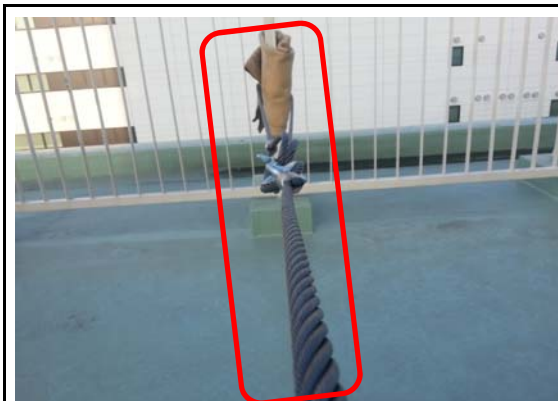
# 「使用上の注意事項」



「ワイヤーロープ」を鋭利な部分に  
当てて作業を行わない。



器具に砂利や砂・泥等が  
入らないようにする。  
(左写真は入りやすい箇所)



けん引時には、けん引線上を  
跨いだり、近寄ったりしない。

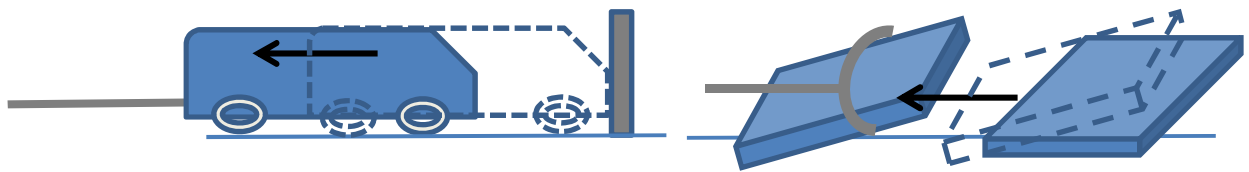
# 「使用状況例」

## 【けん引作業】

車両同士に挟まっている、車両と固定物に挟まっている、倒壊した重量物に挟まっている場合にけん引作業を行う。

＜例＞

- ・事故車両のけん引
- ・倒壊した屋根や壁等のけん引



## 【拡げ作業・持ち上げ作業】

倒壊した重量物に要救助者が挟まっている場合に隙間を作り、救助する。

＜例＞

- ・倒壊した壁、屋根、倒れた家具等の持ち上げ・拡げ
- ・事故車両のダッシュボード、座席、ハンドル等挟まれ箇所の拡げ

